

2019年(平成31年)2月28日(木) NO 131号

K-PURO NEWS

【事業所】

◆ 商号	株式会社 ケイプロ	http://www.k-puro.co.jp
◆ 屋号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆ 本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆ 千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ設置	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

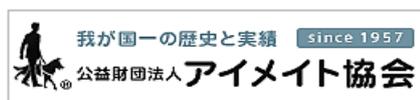


【加盟団体】



RID2770	川口モーニングロータリークラブ	http://kawaguchi-morning.jp/
NPO 法人	さいたま起業家協議会	http://www.saitama-kk.org/
公益社団法人	千葉東法人会	http://www.chibahojin.jp/
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	http://www.rinri-chiba.org/
公益財団法人	モラロジー研究所	http://www.moralogy.jp/

【応援団体・企業】



今月の言葉



自分の周りを見つめると「今までなんとも思わなかったけれど、よくよく考えるとありがたいな」と思えることがあります。大切なことは、それを積極的に見つける努力です。まずはたった一つの感謝を発見することから始めましょう。その人間らしい心づかいに意識を向けたら、毎日の暮らしの中

に少しでも取り入れていけばよいのでしょうか。

私たちの人生は、心の持ち方に左右されます。日々の出来事に対し、どんな心をはたらかせるか。これにより今日一日が決定し、その積み重ねが人生となるのです。

今月の良い話

黒四ダムに命を懸けた太田垣士郎



発足間もない関西電力には難問が山積しており、初代社長に就任した太田垣はまさに飛んで火に入る夏の虫であった。

しかし彼は、とりわけ深刻な電力不足に対応するため、戦前に頓挫していた丸山ダムの建設再開や、多奈川火力発電所の建設などの大きな決断をする一方、徹底した経費節減によって、後に九つの電力会社で随一となった経営基盤の実現へ道筋をつけていった。

そうした中で決断に至ったのが、完成までに 171 人ももの尊い命が失われた“現代のピラミッド”と呼ばれた『黒部第四ダム』の建設であった。『黒四』は人跡未踏の地に一大ダムを建設しようとする試みである。

北アルプスにそびえ立つ立山連峰と後立山連峰の間のV字谷が黒部峡谷であり、高度な技術を持つベテラン登山家以外、足を踏み入れたことのない秘境。

それはまさに想像を絶するほど過酷な現場であった。戦前にもその構想はあったが、工事の難しさと費用が膨大に上ることから着工の目処が立たなかった。

役員会では様々なリスクが指摘されたが、太田垣は言った。

「経営者が 10 割の自信をもって取りかかる事業。そんなものは仕事のうちには入らない。7 割成功の見通しがあったら勇断をもって実行する。そうでなければ本当の事業はやれるものじゃない。黒部はぜひとも開発しなきゃならん山だ！」

この言葉に心を奮い立たされた役員から、もう消極的な意見は出なかった。

黒四建設で成否の鍵を握っていたのが、北アルプスの真下を貫通させ、資材運搬の大動脈となる大町トンネルの掘削工事であった。工事は次第に募っていく寒さも厭わず敢行されたが、入口から 1.7 キロほど掘り進んだところで、大音響とともに凄まじい勢いで噴き出す泥水。このままでは工事は頓挫する。本杭の左右に小さなトンネルを掘って水を抜くことになったが、何本掘っても上手くいかず、また場所を変えて掘る繰り返し。一人一人がギリギリ入れる空間で、しかも崩落する危険と厳しい冷気の中での作業はこの上なく過酷なものだった。そうした難局にあっても太田垣の志は些かもブレることがなかった。

大破碎帯との苦闘の最中に現地視察を敢行し、建設事務所で一通りの説明を受けると、

「君たちは本当によくやってくれている。ありがとう！」 といつもと変わらぬ笑顔で感謝の言葉を述べ、現場を見るためトンネルの奥へどんどん進んでいった。

坑内は落盤や有毒ガス発生の危険がある。慌てて制止する秘書に太田垣は、

「この危険なところで作業させているのは、社長の僕なんだよ・・・。」と自分に言い聞かせるように呟き、悪戦苦闘している作業員一人ひとりに「ご苦労さん！」「頼みますよ！」と声を掛けて回ったのである。

こうして着工より 7 年を経た昭和 38 年 6 月 5 日、黒四ダムはついに竣工に至ったのである。

作家 北康利

記事提供 致知出版社

今月の良い話

プロフェッショナルの条件

「完全を求める」。 決意を示すドラッカー18歳の言葉です。
以来2005年に95歳で亡くなるまで、次の仕事をこれまで以上に出来栄の良いものにしようと研鑽を積みました。18歳で親元を離れたドラッカーは、商社で見習いを始めます。そのころ、「完全とは何か」を教えてくれる二つの言葉に出会います。

一つは、紀元前440年頃のギリシャ時代の物語から。
パルテノン神殿の彫刻を指揮したフェイディアスが仕事を終え、アテネの会計官に報酬の請求をしました。しかし、「彫刻の背中は見えない。誰にも見えない部分まで彫って、請求してくるとは何ごとか」と請求を拒否。フェイディアスは、毅然と答えます。
「そんなことはない。神々が見ている」。



もう一つの言葉に出会うきっかけは、作曲家ヴェルディの手によるオペラ鑑賞のときでした。

子供のころから音楽に親しむ家庭環境にありましたが、難曲で当時ほとんど上演されない演目『ファルスタッフ』を聴いて衝撃を受けます。人生の喜びを表現した今までに聴いたこともない作品だったからです。しかもその作品は80歳の老人の手によるものでした。当時の平均寿命は50歳。80歳の人珍しい存在でした。すでにワーグナーと肩を並べる大家がなぜこのような難しい曲を書いたのか。

興味をもったドラッカーは調べ、生涯心に刻まれる一言に出会うのです。
「いつも失敗してきた。だから、もう一度挑戦する必要があった」。
二人の先達の言葉との出会いが一生を貫く仕事観となり、ドラッカーの運命を変えたのです。
「いつまでも諦めずに、目標とビジョンをもって自分の道を歩き続けよう、失敗し続けるに違いなくとも完全を求めていこうと決心した」

「完全を求める」姿勢は次の言葉に表れています。
「基準は高く設定する必要がある。基準を低くしてスタートすれば、やがて高くなるということは決してない。
『ゆっくり』と『低い』は意味が違う」多くの人が高みに上りたいと願います。しかし最初からエベレストを志す者は少数です。最高峰に登ろうと決意した人だけがいつか到達できるのです。自ら基準を設定することで責任が生まれます。それゆえ、常に挑戦心と意欲を失うことはありません。



個人であっても組織であっても「完全」には手が届かないことは誰でも知っています。だからこそ常に前進するのです。何十年も一つ処に専心することで見えてくる境地があります。それは偉くなることや大きくなることではなく、人として組織として世のなかの役に立つということです。それはこの道を行くと決めることです。神々が見ていると信じて進む信念です。

佐藤等(ドラッカー学会理事)

記事提供 致知出版社

事件ファイル NO131

H30年の刑法犯認知件数

H30年に全国の警察が認知した刑法犯は、前年比9万7597件(10.7%)減の81万7445件となり、4年連続で戦後最少を更新。

一方、特殊詐欺の認知件数は減少したものの被害金額365億円と依然高水準で、サイバー犯罪の検挙件数は過去最多。

DV(家庭内等暴力)の相談件数や児童虐待の疑いで児童相談所に通告した子どもの数も増加した。

刑法犯認知件数の対前年比での減少は16年連続。

全体の7割を占める窃盗が前年比11.2%減の58万2217件、器物損壊は15.5%減の7万8374件で、この二つが全体の減少分の約90%を占めている。

侵入盗被害は、愛知県が07年から11年連続ワースト記録を続けていたが、埼玉県が4973件と4805件の愛知県を上回りワーストとなった。

刑法犯認知件数と検挙率の推移



出典：毎日新聞 2/7(木)

プロ太の小話集 NO131

『 官僚面接 』

アベノミクスが推進され、新たな官僚の採用試験に、優秀な若手が集まった。

面接官は、全員に同じ質問をした。

「2+2はいくつだ」

誰もが4と答え、面接官は全員を不合格にした。そして最後の受験者。

「2+2は？」

「いくつにしたら、お気に召しますか？」

ただちに彼は厚労省へ採用が決まった。



今月のK-PURO ニュースいかがでしたか？
 パルテノン神殿の彫刻を指揮したフェイディアスの『神々が見ている』という言葉は震撼を貫く思いです。良い言葉ですね。
 2005年の耐震偽装に始まり、食品偽装や製造業のデータ改ざん、ここにきて政府統計の不正が取りだたされています。
 不正が続発する理由はなぜでしょう。

高度成長期には人口も増え続け、愛社精神を胸に置き昼夜を問わず働いた企業戦士の給料は右肩上がりの良い時代でした。現在は共働きでないと家計は成りゆかず、子供には多額の養育費がかかります。会社は人手不足の中、株主のために過度の売り上げや乾いた雑巾から無理やりにでも利益を絞り出さねばなりません。正社員だと経費がかかるため派遣の登用。人口減に高齢化の現在。お金だけ貰えればそれでよい。しかし誰でもかプライドを持って働きたいと思っている人は多いはず。こんな時代だからこそフェイディアスの精神とプライドを持つことができれば日本の病んだ社会も変わるのではないのでしょうか。

注：プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長10メートル・体重1トン・無敵無敗)